

平成27年度 「いわての師匠」派遣事業 実施事例集

【事例①】花巻市立大迫中学校への講師派遣

日時：平成27年6月17日（水）14時00分～14時50分

場所：大迫中学校

対象：大迫中学校 第1～3学年（全校） 118名、教職員10名

講師：岩手医科大学 災害医学講座 眞瀬 智彦 特命教授、藤原 弘之 特命助教

演題：『災害医療について・災害時の情報伝達について』

<講演要旨>

- ・災害医療の概要
- ・トリアージ、瓦礫の下の医療活動、広域搬送、DMATの活動等
- ・災害時の情報伝達（トランシーバー、拡声器、衛星電話等）
- ・実演、演習

<生徒からの感想>

「救急医療と災害医療の違い、どんな状況が災害といえるのか、災害のときの連絡方法、災害が起きたらなど知らないことがたくさんありました。講演だけではなく実演もしてくださったので、さらにわかりやすかったです。」

「トリアージで傷病者の治療の順位を決めることや、広域医療搬送で他県などに搬送することなど、医療に携わる人は本当に大変だと思いました。もしも災害が起きたとき、自分を守り、周りの人と助け合ったりすることや、普段からどこに避難するか、食料はどこかなど考えていきたいと思いました。」

<講演による効果>

生徒は実演や演習もあったこともあり、いつもにも増して真剣に集中して講演に参加することができていました。災害医療や防災について学ぶ貴重な場になっただけでなく、日記に感想を書くなど、学習したことを自分のこととして感じることができ、大変有意義な講演会でした

<写真>



【事例②】八幡平市立西根中学校への講師派遣

日時：平成27年6月29日（月）①10時45分～12時35分
②13時35分～15時25分

場所：西根中学校

対象：西根中学校 ①第1学年 96名 ②第2学年 103名

講師：岩手医科大学 災害医学講座 眞瀬 智彦 特命教授、藤原 弘之 特命助教、他4名

演題：『災害医療について・災害時の情報伝達について』

<講演要旨>

- (1) 全体講義「災害医療について」
- (2) 衛星電話実習、トランシーバー実習、トリアージ実習、ラップオン実習

<生徒からの感想（1年生）>

・医師の方々は、災害が発生したときにどう対応するか。トリアージ等の計画を立て、救命していることがわかったし、多くの命を救えるように工夫しているところが素晴らしいと思いました。僕は医師の方々が、裏でとても苦勞していることがわかったので、「自助」「共助」を心がけて、医師の皆さんに負担をかけないようにしたいと思います。

・実習をして、今の技術は素晴らしいと思いました。ラップオンは、災害時に衛生的に用を足せるように、袋で排泄物を密封したり、衛星電話は地球の基地局が壊れても電話できたりと、ずいぶん便利なものがあるけれど、値が張るので、自治体等で公共施設にそういったものを置くなど、災害対策をして欲しいと思いました。

<生徒からの感想（2年生）>

・災害時、72時間というタイムリミットがある現場で、一人でも多くの命を救うために必死に医療にあたる先生方の姿、思いを知ることができた。人のために動ける先生たちのように私もなりたいと思う。

・東日本大震災のときに、様々な災害医療が役立っていたことに驚きました。実習では、ニーズに応じて考えられた様々な器具に感心したし、初めて見るもの聞くものばかりだったので興味を持ちました。自分でももっと調べてみたいと思いました。

<講演による効果>

災害医療について初めて聞く生徒がほとんどであったが、講義や、実習を通して知識を得ることができた。また、今回の講演をきっかけに、災害医療について興味、関心をもつ生徒もいた。今までとは違った側面から復興教育に取り組むことができ有意義な学習となった。

<写真>



【事例③】岩手県立久慈高等学校への講師派遣

日時：平成27年7月17日（金）13時15分～14時55分
場所：久慈高等学校 視聴覚室・数学演習室
対象：久慈高等学校 第3学年A組 29名
講師：一般社団法人岩手県銀行協会 常務理事 菊池 芳泉

<講演要旨>

- ・ライフステージで学ぶ銀行
講義形式でさまざまな銀行の役割を講演
- ・ライフプラン作成
パソコンを利用して実際に自分自身の生涯マネープランをつくりながら金銭的な感覚を養う。
- ・金融犯罪の手口と対策
近年増加する特殊詐欺やインターネット犯罪について講演

<生徒からの感想>

- ・銀行の仕事を誤解していた。思っていたよりも多くの仕事をこなしていることに驚いた。
- ・最初は興味なかったが、自分にも関係あることだと思えるようになった。
- ・教育や家を建てるのにそんなにお金がかかるのかと不安になった。
- ・意外と給料をもらえることに驚いた。
- ・意外と給料が少ないことに驚いた。
- ・計画をたててみると、楽には暮らせそうにないのでコツコツとがんばっていくしかない。
- ・うちのおばあちゃんも詐欺に遭いそうになり、この本を見せてあげたい。

<講演による効果>

生徒は文系で、経済系に進む者も多く、また就職希望者がいるクラスでもあり、金融教育は必要だと感じていた。講師はこちらが望むことを丁寧に説明してくださり、途中には作業もあって生徒を飽きさせなかった。お金が身近な存在であると同時に、知らないことが多いこと、扱い方を誤ると危ないものにもなることを実感したようである。今後の進路達成に向けて実りのある講演となった。

<写真>



【事例④】遠野市立上郷小学校への講師派遣

日時：平成27年9月9日（水）14時00分～14時45分

場所：上郷小学校

対象：上郷小学校 第5学年 21名

講師：岩手医科大学 災害医学講座 眞瀬 智彦 特命教授、藤原 弘之 特命助教

演題：『災害医療について・災害時の情報伝達について』

<講演要旨>

- ・災害時医療体制について
- ・緊急災害時の行動
- ・トリアージのロールプレイング
- ・トランシーバーを用いての連絡、実習

<生徒からの感想>

・一番心に残ったのはトリアージです。緑と黄色と赤と黒に分けて軽症、中症、重症を明らかにして治療する順番を決めることを初めて知りました。そして順番に並ぶことの大切さも知りました。あと、トランシーバーを初めて触りました。携帯が繋がらないと大変なのですごくいい体験ができました。ありがとうございました。（5年生女子）

・防災教室でぼくは、トリアージの分け方を知りました。一番症状が重いのは最優先治療群で次に症状が重いのは待機的治療群、最後は軽傷群というように、三つに分けることがわかりました。それに、最後に劇をしてわかり安くして下さいありがとうございました。もし災害が起きても教えて頂いた通りにしたいです。本当にありがとうございました。（5年生男子）

<講演による効果>

災害時医療体制についての講演を通して、緊急災害時においてどのように行動したらよいのか、トリアージのロールプレイングや実際にトランシーバーを用いての連絡方法など体験しながらわかり安く教えて頂いた。「自助、共助、公助」の大切さや家庭において避難場所や連絡方法の確認をしておくことなど防災行き来を高める上で大変貴重な機会となった。

<写真>



【事例⑤】岩手県立杜陵高等学校への講師派遣

日時：平成27年10月2日（金）①12時00分～13時00分
②17時45分～18時35分

場所：杜陵高等学校 ①多目的ホール ②視聴覚室

対象：杜陵高等学校 ①定時制1・2部 107名 ②定時制3部 14名、教職員40名

講師：岩手県立大学 社会福祉学部 准教授 中谷 敬明

演題：『こころの危機とは何か ～”なぜ”と”どうやって”という態度～』

<講演要旨>

- ・トラウマティックストレス、悲嘆
- ・災害後の心の変化
- ・今後取り組んでいくべきこと 等

<生徒からの感想>

・トラウマティックストレスや複雑性悲嘆など、自分では気づかない心の痛みがあり、支援が必要なのだとこのことを知りました。今でもストレスを抱えて生きている人が大勢いて、その中で自分は贅沢すぎるほどいい生活をできているのだと思いました。人の相談はいつでも真剣に聞いていきたいと思います。

（1・2部 1年女子）

・あまり震災で影響を受けなかった僕は心にダメージを負わなかったが、やはり精神的に大きく傷を負った人たちがいることを再確認できた。今回はストレスについて学んだが、それと同じくらい「良心」という言葉が強調されていた。確立された安心を得るために良心に従って選択し互いに影響しあい社会を動かしていくことが大切ということに気付かされた。これからは何か迷った時には良心に従って行動してみようと思う。（1・2部 3年男子）

・時間が経っても悲嘆から抜け出せない人、逆に時間が経つほどに悲嘆を自覚していく人も多いことに驚いた。幼くして被災した子も周囲にたくさんいると思うので、注意して見守っていきたい。そして自分自身の変化にも意識を向け、不安に思うことがあれば今回の講演を思い出し、ためらわずに周囲の人と話し合ってみようと思う。（3部 4年男子）

<講演による効果>

トラウマティックストレスと悲嘆というキーワードを中心に、災害後の心の変化、われわれが今後取り組んでいくべきこと等についてご講演をいただいた。復興が進みつつある今こそ心の危機はまだ進行中であること、その中でも我々が取り組めることがあることなどの中谷先生のメッセージは、生徒達の心に伝わったと感じた。

<写真>



【事例⑥】山田町立豊間根中学校への講師派遣

日時：平成27年11月28日（土）13時30分～15時00分

場所：豊間根中学校 体育館

対象：豊間根中学校 第1～3学年（全校） 80名、保護者・関係者 30名

講師：一関工業高等専門学校 機械工学科 准教授 八戸 俊貴

演題：『宇宙開発の歴史と今後の展望 ～人類初飛行から未来まで～』

<講演要旨>

- ・宇宙開発や飛行機開発の歴史、NASA、JAXAのあゆみについて
- ・宇宙旅行や火星移住計画など、宇宙開発の未来について
- ・宇宙開発に関わった人々をとりあげた書籍の紹介

<生徒からの感想>

- ・人類が夢見てきた飛行への憧れが、現実になっていく過程のお話は大変興味深く聞きました。
- ・講演の中で紹介された本を、ぜひ読んでみたいと思いました。
- ・火星移住の話は驚きましたが、宇宙開発が日々進歩していることがよくわかりました。
- ・これまで聞く機会の少ない宇宙開発分野に関わるお話は楽しく、幅広い知識による講演内容にとっても興味を覚えました。
- ・希望する職業とは違う分野ですが、興味をもったことは積極的に自分から調べてみようとする気持ちが大切と感じました。

<保護者・地域関係者感想から>

- ・難しい宇宙開発の話を分かりやすく説明していただいたと思います。中学生には、大変夢のある話が聞けたと思います。
- ・ライト兄弟の飛行機製作時に、当時の人が「機械を飛ばすことは科学的に不可能なこと」と言っていたという説明部分が印象に残りました。不可能を可能にしていくことができると、中学生も勇気をもってけるといいですね。

<講演による効果>

第一線で活躍する講師から専門分野に関わるお話を聴講し、中学生が将来への夢を抱きよりよい生き方を真剣に考える機会となった。また、保護者や地域関係者も中学生と一緒に聴講し、有意義な講演会となった。

<写真>



【事例⑦】岩手県立黒沢尻工業高等学校への講師派遣

日時：平成28年3月7日（月）10時00分～11時50分
場所：黒沢尻工業高等学校
対象：黒沢尻工業高等学校 第1学年 191名、教員 12名
講師：岩手医科大学 災害医学講座 眞瀬 智彦 特命教授
演題：『災害時の医療活動について』

<講演要旨>

- ・災害時医療の概要
- ・東日本大震災時の医療
- ・リアージ、瓦礫の下の医療活動、広域搬送、DMATの活動
- ・ワークショップ

<生徒の感想から印象に残った事項>

- ① トリアージについて（ほぼ全員が記述した。）
- ② 自助と共助、公助について
- ③ クラッシュ症候群、DMAT、避難所について

<講演による効果>

普段の生活ではあまり触れることのない特殊な状況での医療について、そして災害時の医療の実際と現状について、阪神淡路大震災と東日本大震災を例に挙げながらお話しをいただき、とても興味を持って学ぶことができました。そして、今後また災害が発生しても今度はこうしようという防災意識と、自助と公助の重要性、災害に対する普段からの心構え等が養われたようです。今回も子どもたちにとって、とても有益な講演会になったと思います。

<写真>



【事例⑧】岩手県立沼宮内高等学校への講師派遣

日時：平成28年3月17日（木）11時00分～12時50分

場所：沼宮内高等学校

対象：沼宮内高等学校 第1学年 38名

講師：岩手医科大学 災害医学講座 眞瀬 智彦 特命教授、藤原 弘之 特命助教

演題：『災害医療講演会』

<講演要旨>

- ・災害医療とは
- ・東日本大震災、トリアージ、衛星通信について
- ・避難所運営ゲーム（HUG）

<生徒からの感想>

- ・トリアージでは、治療の優先順位をすばやく正確に判断することが重要だと思った。沿岸部ではまだ復興していない地域もあるので、今自分ができることをしていきたいと改めて思った。
- ・災害時の医療の困難さや、より早く被災地の患者の治療を行うためのDMATの活動について知ることができました。
- ・災害時に、交通や通信が断絶し、給水、衛生、食糧などの環境が十分に整わない中で、病人や障害者などに配慮し、避難者の配置をすぐに決めるのはとても困難なことだ。だからこそ、日頃からこのようなことを考えておくことが必要不可欠だと思う。

<講演による効果>

災害や災害時の対応をより身近なこととして考えることができた。生徒たちも、実際に災害が起きた場合、次々に対処しなければならない事態が発生するということを理解し、日頃から備えておくことの大切さを実感したと思う。今後、学校が避難所になった場合の対応なども想定し、より具体的な備えを考えていかなければならないと感じた。

<写真>

